

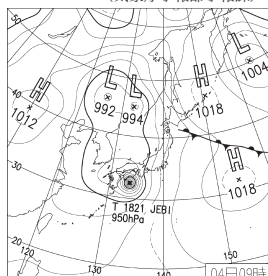
日々の天気図

—No. 200

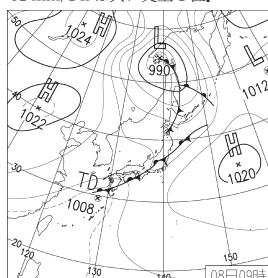
2018年9月

- ・4日、台風第21号が四国・近畿を上陸、北上。高潮の影響で関西国際空港浸水、暴風で家屋多数損壊等、近畿地方中心に大きな被害。
- ・6日3時8分頃、北海道厚真町で震度7。土砂崩れ多発、全道停電。
- ・29～30日、台風第24号により沖縄～関東で暴風、高潮、大雨。

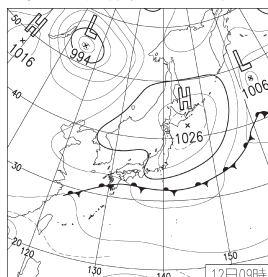
(気象庁予報部予報課)



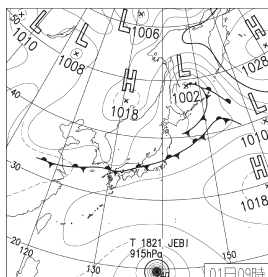
4日(火)台風第21号西日本横断
台風は12時前、非常に強い勢力で徳島県南部に上陸。14時前、兵庫県神戸市付近に再上陸。大阪府関空島の最大瞬間風速58.1 m/s、高知県田野92 mm/1 hは共に史上1位。



8日(土)前線の停滞続く
九州～東北南部に停滞する前線や、東シナ海の熱帯低気圧の影響で、関東や北海道の一部を除き全国的に雨。大阪府能勢で64.5 mm/1 hなど、局地的に非常に激しい雨。

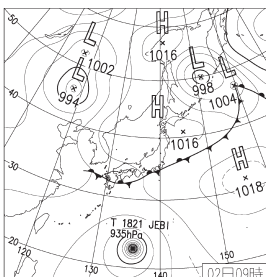


12日(水)硫黄島で海底噴火
前線が停滞し沖縄と西～東日本の所々で雨。日降水量は、宮崎県日向で280.5 mm、都農で203 mm、三重県尾鷲で188.5 mm、各地で短時間に激しい雨も。北日本では概ね晴れ。



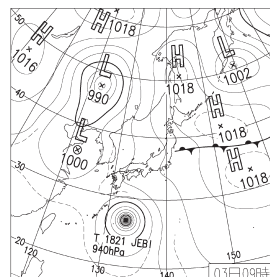
1日(土)前線停滞

西～東日本に前線が停滞し九州～東北南部まで雨、島根県浜田で9月1位の86 mm/1 hのほか、山陰や北陸などでは非常に激しい雨。沖縄・奄美は晴れや曇り、北海道も次第に晴れ。



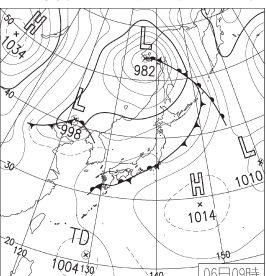
2日(日)関東気温上がらず

前線が本州南岸に停滞、西日本～東北太平洋側は雨や曇り。大分県椿ヶ鼻61 mm/1 hなど九州で非常に激しい雨。前線北側の関東は、東京23.7℃など最高気温が10月上旬並の所も。



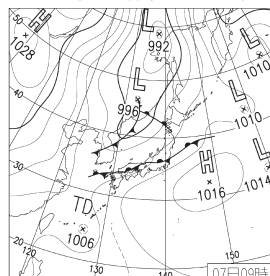
3日(月)台風、日本の南を北上

台風第21号からの湿った空気や気圧の谷の影響で、西日本の太平洋側や東日本～北日本は曇りや雨。その他は概ね晴れ。三重県四日市で未明に58.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



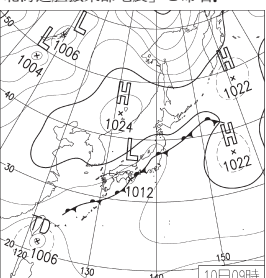
6日(木)北海道厚真町で震度7

本州南岸の前線が北上し、西日本は次第に雨、東日本と東北は概ね晴れのち曇り。北海道は寒気が入り所々で雷雨。北海道の地震は「平成30年北海道胆振東部地震」と命名。



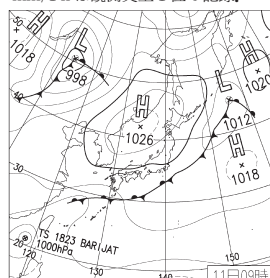
7日(金)西～東日本に前線停滞

前線に近い西～東日本を中心に雨。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ中国、四国を中心に大雨となった所も。広島県倉橋の62 mm/1 hは観測史上1位の記録。



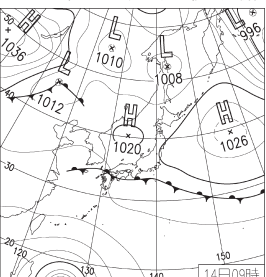
10日(月)前線が本州付近に停滞

暖かく湿った空気が流入し、引き続き前線の活動は活発。全国的に雨が降り、静岡県御前崎で64 mm/1 hの非常に激しい雨。東京都大島北ノ山の49.5 mm/1 hは9月1位の値を更新。



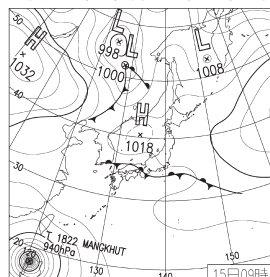
11日(火)冬日最早1位タイ

北から高気圧が張り出し前線は南下、晴れた北海道は冷え込み、沼川の最低気温-0.9℃は今年富士山除き全国初冬日、1888年北海道旭川などと同じく冬日最早。台風第23号発生。



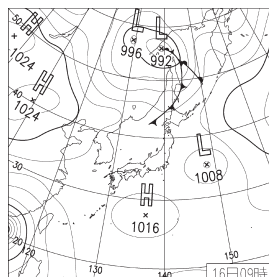
14日(金)西～東日本曇雨天続く

秋雨前線の影響で西～東日本を中心に雨。沖縄・奄美や北日本では日中は晴れ。鹿児島県さつま柏原の32.8℃をはじめ、沖縄～九州・四国では真夏日の所も。胆振東部で震度4の地震。



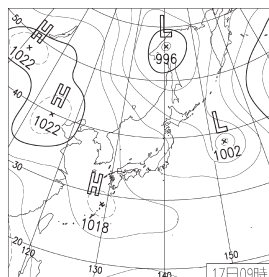
15日(土)残暑戻る

北海道は高気圧に覆われ晴れ。その他は秋雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨だが西から次第に天気回復、気温上昇。宮崎県赤江で最高気温33.8℃など西日本115地点で真夏日。



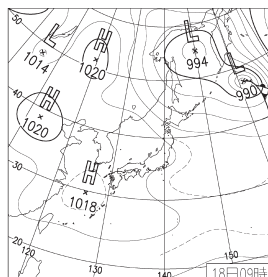
16日(日)残暑続く

沖縄・奄美～四国は晴れ、近畿～東日本は湿った空気により、北日本は気圧の谷の影響でいずれも所々で雨。昨日の西日本に加えて東海でも真夏日が戻り、北日本も8月並の気温に。



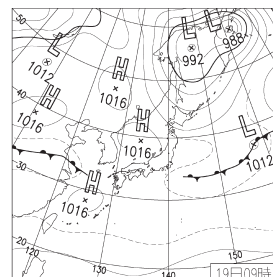
17日(月)厳しい残暑続く

沖縄・奄美は高気圧に覆われ晴れ。中国～北日本は湿った空気や気圧の谷により雨が降ったが、西～東日本太平洋側と北日本は日中を中心に概ね晴れ。各地で最高気温が真夏並に。



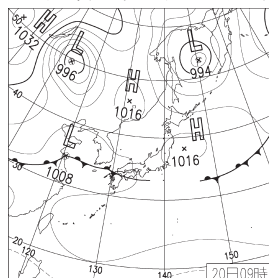
18日(火)関東で局地的な雷雨

東シナ海の高気圧に覆われ沖縄～東北は晴れや曇り。関東は大気の状態が不安定で、茨城県鉾田49.5 mm/1 hなど2日連続の雷雨。北海道は気圧の谷の影響で所々雨。



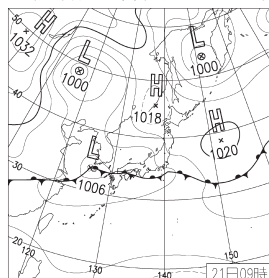
19日(水)西から天気下り坂

北海道は気圧の谷の影響で所々で雨。日中は高気圧に覆われて全国的に概ね晴れ。沖縄～近畿、東海は真夏日。停滞前線が東シナ海から夜には九州付近にのび出し、西日本の所々で雨。



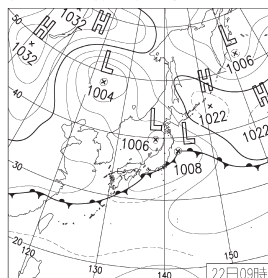
20日(木)北海道旭岳で初冠雪

前線が西日本に停滞し、前線に近い九州で激しい雨。熊本県高森の55 mm/1 hは、9月1位の値を更新。一方、九州南部や沖縄は、高気圧に覆われ気温上昇、41地点で真夏日。



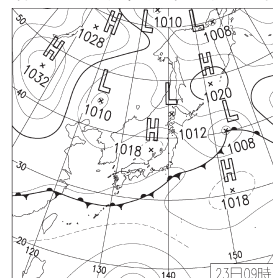
21日(金)前線停滞

西～東日本に前線が停滞。福岡県大牟田で33.5 mm/1 hなど九州の一部で激しい雨。朝方晴れた北海道では最低気温が10月下旬並の所もあり、晩秋の趣き。台風第24号発生。



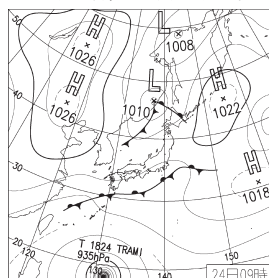
22日(土)西から天気回復

前線や低気圧の影響で全国的に曇りや雨。和歌山県潮岬で46 mm/1 hなど所々で激しい雨。広い範囲に雨を降らせた前線は西から南下し、西～東日本は次第に晴れ間広がる。



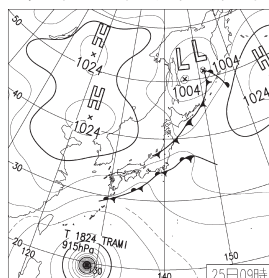
23日(日)北海道の冷え込み緩む

前線は本州の南に離れ、西日本～東北は晴れや曇り。前線に近い沖縄や奄美、低気圧が接近した北海道は所々で雨。最低気温は北海道で平年より高く、平年差+5℃以上の所も。



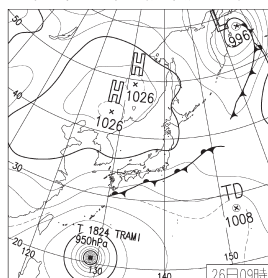
24日(月)奄美地方で猛烈な雨

秋雨前線が東シナ海～本州の南に停滞。鹿児島県小宝島で138.5 mm/1 h。気圧の谷の影響で北海道米岡でも54 mm/1 hを観測し、史上1位の値を更新。全国的に曇りや雨の所が多い。



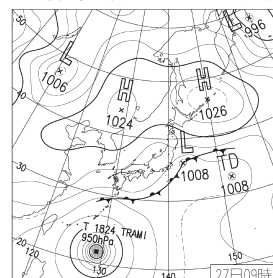
25日(火)伊豆諸島で大雨

暖かく湿った空気により沖縄は雨。その他の地方は前線に伴う雨雲が東進。東京都神津島71 mm/1 hは観測史上1位、新島57 mm/1 hは9月1位。西日本と北海道付近は次第に晴れた。



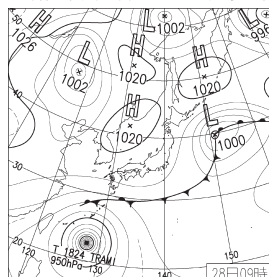
26日(水)富士山初冠雪

前線が本州南岸に停滞。西～東日本は次第に雨。北日本は晴れや曇りだが一部で雨。沖縄・奄美も湿った空気の影響で曇りや雨。昨年より27日早く富士山初冠雪。



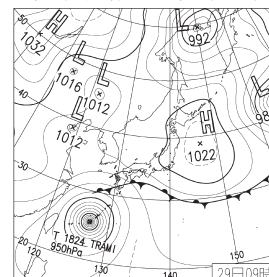
27日(木)宮崎市でススキ開花

前線が本州南岸に停滞。前線上に発生した低気圧は福島県沖を東北東進。一方、台風第24号は宮古島の南東海上に停滞。西日本では晴れた所もあるが、全国的に雨の所が多くなった。



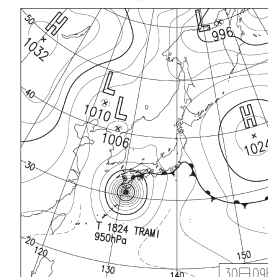
28日(金)宮古島が暴風域に

沖縄・奄美は台風第24号や前線の影響で曇りや雨。北日本は気圧の谷の影響により所々で雨。その他は日本海の高気圧に覆われ概ね晴れ。沖縄県下地で最大風速26.6 m/sを観測。



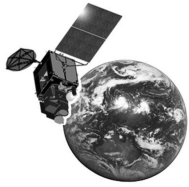
29日(土)大型で非常に強い台風

台風第24号が北上、鹿児島県与論島で最大瞬間風速56.6 m/s。前線も次第に北上、夜、西日本の南岸に停滞。和歌山県潮岬の日降水量270 mmは1913年の統計開始以来9月1位の値。



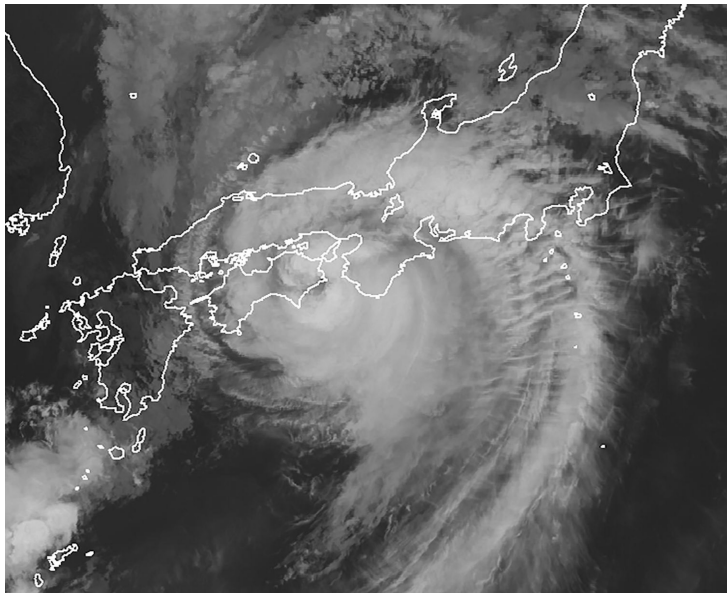
30日(日)台風、列島大荒れ

台風第24号は20時頃和歌山県田辺市付近に上陸後、北東へ。宮崎県西都で史上1位の最大瞬間風速41.3 m/sなど西～東日本の広い範囲で記録的暴風。高知県では竜巻も。



今月のひまわり画像—2018年9月

非常に強い勢力で上陸した台風第21号



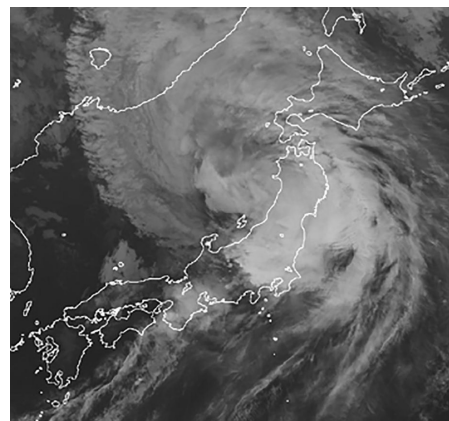
第1図 2018年9月4日12時（日本時間）の西日本付近の赤外画像。

2018年9月は、日本に上陸した台風が2個あり、その一つが台風第21号であった。

第1図は9月4日12時（日本時間）の西日本付近における赤外画像で、台風が徳島県南部に上陸した直後である。台風に伴う雲域は、眼は明瞭ではないものの、白く輝いて見える雲頂高度の高い積乱雲がバンド状に中心付近を取り巻いている。この時刻の中心気圧は950 hPa、最大風速は85 kt（1 kt=0.51 m/s）で、非常に強い勢力で日本に上陸するのは1993年台風第13号（鹿児島県薩摩半島南部上陸）以来となった。

この台風により、近畿・東海・北陸地方を中心に記録的な暴風を観測し、大阪湾などでは記録的な高潮となった。大阪では14時18分に最高潮位329 cmを観測するなど6地点で過去の最高潮位を。また関西空港では13時38分に最大瞬間風速58.1 m/sを観測し、極値更新となった。同空港は高潮や高波の影響により滑走路が浸水し、さらに連結橋へのタンカーの衝突により、一時孤立状態となった。

台風は同日14時前、神戸市付近に再上陸し、日本海へ抜けていった。第2図は、台風が日本海に入ってから数時間経った同日21時の日本付近の赤外画像である。この時刻の中心気圧は970 hPa、最大風速は65 kt。台風の雲域は、まだ活発な積乱雲を伴っているが、円形度がなくなり、左右対称性が崩れてきている。台風が上陸している間、エネルギーとなる水蒸気の補給がな



第2図 4日21時の日本付近の赤外画像。

く、日本海で海面水温のより低い海域を進んだことから、衰弱したことが衛星雲画像から見てとれる。ただし、一般的に、台風から温帯低気圧へ遷移するときは、台風としての雲の形状が崩れても、温帯低気圧として再発達し、最大風速が強くなることや暴風域が広がることもあるので、注意・警戒が必要である。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）